

本日、慶應義塾大学 SFC 研究所プラットフォームデザインラボは、読谷山洋司延岡市長に地域創生研究功労賞を顕彰致します。その顕彰理由は、2 点になります。

第一に、慶應義塾大学 SFC 研究所との共同研究を地域の教育創生に起結させた貢献です。例えば、市内全ての中学校において、国内外あらゆる大学との接続を可能にするオープンアクセスな同時双方向遠隔授業環境を低コストで実現させました。また、同時双方向遠隔授業を用いた新しい学びの提供です。自分の考えを論理的に構築して相手に分かりやすく表現し、コミュニケーションを図っていく力である「論理コミュニケーション」の学びを市内全ての中学校で実現させました。

第二に、全国の地方都市共通の課題である、新しい学びを提供する教育資源を確保出来ないという課題を新しい協働(プラットフォーム)を作ることによって解決しました。例えば、これまで学校教育では実施が難しい、特に地方都市では実施が難しいとされた、ビジネスデザインや STEAM のような新しい学びを延岡こども未来創造機構と言う新組織を設立し、慶應義塾大学と東京学芸大学の教員を招聘して実現させるなど、地方と大都市の教育格差を埋める新たなモデルの実現に寄与されました。

私は、本日、この式に来る前、旭中学校、西階中学校を訪問し、遠隔地の専門家の先生と学校の教室の先生が協働し、普通に行われている新しい教育、論理コミュニケーションの同時双方向遠隔授業の様子を見学して参りました。市長の蒔かれた種は着実に育っています。

さて、ここで延岡市と慶應義塾大学 SFC 研究所のこの 4 年間の地域創生に関する連携研究協定を振り返る時間を下さい。二者が掲げた協定の目的は、市単独、大学単独、ましては企業サービスを買うだけでは解決出来ない課題の解決策を見つけることにあります。私自身は、この協定締結以来、慶應義塾大学大学院特任教授として、延岡における研究を牽引させて頂きました。

現在の私は、この 4 月に大学教授を離れ、スイスジュネーブに本部を置く IEC(国際電気標準会議)において、15 カ国 60 名の専門家を招集し、スマートエネルギーの開発計画を担当するコンビナー、日本語で言う議長職に専念しています。その現場において、日本からの提案への各国の反応を見る中で、日本と言う国が本当に弱くなったんだという事実を実感させられています。

私が読谷山市長との連携の中で感じてきたこと、それは市長の持つ強い焦燥感です。しかし、それは焦燥感ではなく、事実を見ていた、言い換えると不都合な事実を目を背けずに見ていたからだと推察します。

ここに IEC と同じくスイスに本部を置く IMD(国際経営開発研究所)が、世界 69 カ国・地域を対象に各国の競争力を調査した、「世界競争力ランキング 2025」と言う論文があります。国際的にとても影響力がある論文です。この研究が全てとは言いません。しかし、市長が連携を志向された台湾は 6 位、それに対して日本は 35 位の位置にあります。私達が先

進国としてよく知る国、イギリス、カナダ、アメリカ、ドイツ、フランス、アジアでは、シンガポール、中国、オーストラリア、マレーシア、韓国、タイは、日本より上位にあります。

特に深刻なのは、未来を担う人材を育成する教育に関してです。台湾の11位に対して日本は36位です。つまり、差は開く一方と言う不都合な事実です。この事実に向かい、焦らないのは、怠慢です。私自身も教育者の1人として反省しかありません。

しかし、延岡には一つの光があります。市長がこの3月に、延岡市が誇る延岡城を見渡せる茶室で議論した6人の中学生と高校生です。

彼ら彼女達は、書くのが苦手だけど論理的に長い文書が書けるようになるという学校教育における論理コミュニケーションから始まり、延岡こども未来創造機構と言う新組織において、週末や冬休みや春休みを返上し、慶應義塾大学と東京学芸大学の教員からの授業を受け、ついには、災害時において延岡市が備えるべきモノと言う大人でも回答が難しい問題に対して、身の回りの観察、図書館における本、タブレットにおけるデータ探索を駆使して自分の意見を説明し、私のような大学の先生、市長とも意見交換出来る高度なコミュニケーション力を持つまでに成長しました。中1から連続して受講する学生からは、来年は海外の専門家と意見交換出来るように毎日頑張っていると報告を受けています。

今年からは、小泉副市長、山本副市長、高森教育長と連携し、すべての中学校に居る、勉強やスポーツは苦手だけれど、論理コミュニケーションに秀でた学生たちに招待状を出そうと計画しています。6人は、確実に拡大していきます。

延岡に住んだからこそ、大都市では見えない、バラ色ではないかもしれないけど、自分が解決したい問題に溢れた未来が見える。そんな、未来を切り開く子ども達が延岡で生まれはじめています。

もちろん、課題解決の過程では色々な意見があります。しかし、問題は、批判からでは解決しません。そうした中で、一つの解決策を示したこと、それは顕彰に値する業績である、と私自身も市長から学ぶところです。

年初に市長と懇談した際、市長は、「梅嶋先生、慶應義塾大学も良いのですが、私には慶應義塾大学 SFC 研究所が大事なのです。新しい挑戦を推進する存在だから。」とお聞きしました。そこで、本日、私は慶應義塾大学 SFC 研究所上席所員に復帰し、顕彰式に参上させて頂きました。本日の受賞、おめでとうございます。

2025 年 6 月 27 日
慶應義塾大学 SFC 研究所上席所員
梅嶋真樹

読谷山洋司延岡市長の慶應義塾大学 SFC 研究所プラットフォームデザインラボ地域創生研究
功労賞に寄せて多くのお祝いの言葉を頂きました。

一樹百獲と申します。教育のイノベーションに果敢に挑戦され、次世代の学びの実装を実現し、さらには地域づくりにも多大な貢献を果たされた読谷山市長のご功績に心から敬意を表します。

慶應義塾大学 SFC 研究所所長
飯盛義徳

読谷山市長様の教育プログラムの高度化に向けた取り組みへの深いご理解とご貢献に深く敬意と感謝を申し上げます。頂いたご恩を励みに今後もより上質の教育を通じた地域づくりの研究・開発に進んで参りますので、今後ともどうかお見守り下さい。

慶應義塾大学名誉教授
國領二郎

延岡市との連携が拓いた教育改革の道に、深く敬意を表します。本顕彰を心よりお祝い申し上げます。

慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科教授
山形与志樹

読谷山洋司延岡市長、慶應義塾大学 SFC 研究所プラットフォームデザインラボ地域創生研究功労賞受賞、誠におめでとうございます。読谷山様の延岡の子ども達の学びや成長、教育に向けられた信念、熱意にはいつも敬服致しております。

国立大学法人東京学芸大学 教育インキュベーションセンター長 教授
金子嘉宏

読谷山市長 慶應義塾大学 SFC 研究所プラットフォームデザインラボ地域創生研究功労賞受賞おめでとうございます。2 期 8 年間に今回受賞の教育の革新 さらに健康医療の DX AI 化推進など日本の自治体の魁としてご活躍されたことが評価されたのかと思います。本当におめでとうございます。

独立行政法人 国立循環器病研究センター部長
神戸大学医学部客員教授、藤田医科大学客員教授
西村 邦宏

この度は、栄えあるご受賞、誠におめでとうございます。延岡市民の皆様を第一に市政を推進されていらっしゃる読谷山市長のごこれまでのご尽力とご功績が広く認められましたこと、心よりお祝い申し上げます。今後ともご指導のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

前延岡市副市長
総務省 中間 弘

「慶應義塾大学 SFC 研究所プラットフォームデザインラボ地域創生研究功労賞」の受賞、心よりお慶び申し上げますとともに、これまでの延岡市へのご貢献に対し、深く感謝申し上げます。私は本学業務として多くの自治体に出向き、自治体首長の皆様方とお話する機会があります。その際、延岡市の子ども未来創造機構を始めとする斬新で先見性に満ちた取組が注目されていることを感じます。市長が蒔かれた種は、市民や職員によって育っていき、必ず結実することと信じております。特に機構については、私も理事として継続的に経営に関わり、一日も早く自走できる組織に成長するよう、私なりに支援をして参ります。市長におかれましては、まずはご自身の治療に専念され、一日も早いご快癒を祈っております。甚だ楚辞ではございますが、私からのお祝いの言葉とさせていただきます。

兵庫教育大学大学院学校教育研究科教授 前延岡市教育長
澤野幸司